

# リズムにのって演奏・交代する

ドラムテーブル アクティビティ  
シリーズ – レッスンプラン  
発達障害及び自閉症の生徒対象

## レッスン 4



### 対象項目

コミュニケーション、学力、認知、感覚運動、社会性

### スキル領域

言葉の理解、算数、シークエンシング、集中力、粗大運動、チームワーク、順番で交代する/衝動のコントロール

### 目標

1. ドラムを叩きながら、またマレットをリズムにのって次の人に渡すことができる。
2. 特定のリズムやリズムのフレーズを聞いて、リピートできる。
3. より正確なタイミングでできるようになる。

### 目的

このレッスンを通じて、参加者は次のことができるようになります。

1. さまざまなリズムのパターンを聴きとり模倣できる
2. 自分独自のリズムの作り方がわかる。

### 教材

- レモ CST ドラムテーブル 40”  
マレット 1 人 2 本ずつ
- ※レモ CST ドラムテーブル 30”、  
22”でも可。その場合、人数の多いグループでは交代して叩くようにする。
- ドラムテーブルアクティビティシリーズ  
Video レッスン 4  
[comfortsoundtechnology.com/lessons](http://comfortsoundtechnology.com/lessons) (ウェブ無料公開)

### 音楽療法

公認の音楽療法プログラムを修了した信頼の置けるプロが療法の一環として関わり、個々に設定された目標を達成するために臨床的に証明された音楽の使用を実施すること。

ご自身が認定音楽療法士であるか、認定音楽療法士と協力して行う場合、付属資料「音楽療法ガイドライン」を参考いただき、対象者へのより深い機会の提供にお役立てください。

## 準備

参加者はドラムを囲み輪になり、動くのに適度な間隔をとって座るか立ちます。必要な教材は全てそろえておきましょう。時間は15分、必要な場合はそれ以上とって行います。

## レッスン

これから何をするか説明をします。説明はゆっくり簡潔にします。実際にやって見せ、その後に理解できているかきいて確認します。

コール&レスポンスを使ってリズム渡しをします。

1. 他の人が演奏をよく聴くことの重要性について教えます。他の人が叩いたことをまねしたりリピートすること（Call & Response）を、参加者の能力に応じてはっきりと伝わるように方法を考える。言語によるコミュニケーションが難しい参加者グループに対しては、言葉に頼らず、お手本をシンプルな形で見せることが適しています。この段階では、いかに正確にリズムを再現かは重要ではありません。他の人の音をよく聴き、リピートしたり、似たようなリズムを演奏しようとする事自体がここでの目的です。
2. 簡単なリズムパターンを順番に回して見せましょう。再現しやすいシンプルなパターンからはじめましょう。  
例：1・2・チャチャチャ
3. リズムパスを何周かうまく回せたら、参加者に自分のリズムをパスしていってもらうようにリードを任せます。その際、なるべくシンプルなパターン、フレーズにするよう伝えます。

## 応用編

1. 参加者やあなた自身が好きな音楽を使ってみましょう。
2. 他の動きをとりいれてみましょう。（足踏み、ダンス、体を揺らす、手を叩く、シェイカーを振る、他の楽器を演奏する）
3. 音楽なしでレッスンをしてみましょう。レッスン中、リズムのキープやカウントといったことに注目します。アクティビティ中に安定したテンポから、テンポを変えたりします。

## 参考情報

全米音楽療法協会

<http://www.musictherapy.org/>

The ComfortSound

<http://www.thecomfortsound.com/>

REMO, Inc.

<http://remo.com/>

## 著作権

本印刷物の著作権は以下の個人、会社に帰属します。

内容の一部、または全部を無断転載することを固く禁じます。

著者：ジョージ・トンプソン

George Thompson

ミュージック&パフォーミング  
アーツディレクター (TERI, Inc)

協力：テリー・ウィナー

Terri Wiener

MT-BC 米国認定音楽療法士  
音楽療法士 (TERI, Inc)

Remo, Inc.